

行政調査報告書「総務企画常任委員会」

令和8年7月15日～17日

■千葉県千葉市 『新庁舎の整備について』

令和5年から共用を開始した庁舎は、市民イベントにも利用できる「市民ヴォイド」や屋上庭園がある低層棟と、執務室を中心とした高層棟から成り立っている。東日本大震災で旧庁舎が被害を受けたことから基礎免震構造が採用され、危機管理センターや非常用発電設備など災害時でも行政機能を継続するための設備が備わっていた。市民ヴォイドは多様なイベントに対応するため吹き抜け空間となっており、平時でも市民がくつろげるスペースとなっている。本市でも新庁舎の整備を検討していることから、災害発生直後でも業務が継続できる拠点づくりや市民サービスの向上を目的とした整備手法は参考になった。



■埼玉県秩父市 『庁舎と市民会館の複合施設について』



老朽化と耐震性の課題に伴い、庁舎と市民会館を合築として建て替えることで建設コストを抑えつつ、機能をコンパクトにまとめた複合施設となっていた。市民会館のホールは十分な舞台幅と高さがあり、舞台までの距離が短く、出演者の表情がよく見える構造となっていた。庁舎にも市民会館にも秩父地域産の木材をふんだんに活用したあたたかみのある空間づくりがされており、議場からは秩父の礎となったセメントの採掘現場である武甲山を望むことができる。本市でも市民会館の老朽化が課題となっており、庁舎の整備とあわせて検討していきたい。

■茨城県守谷市 『東京ヤクルトスワローズファーム施設の移転について』

守谷市では東京ヤクルトスワローズ二軍施設の移転事業が進行中で、2027年シーズンからの開業を予定している。今回の調査では、事業スキームや施設を活用した今後のまちづくりの展望等について、お話を伺った。本市は中日ドラゴンズ2軍球場の移転先に名乗りを上げており、誘致に向けて球場のみならず、周辺のにぎわいや交通、地域とのつながりまで含めて、今後議論を進めていく必要があると感じた。

